



卷頭言

日本の労働組合運動の礎石を築いた総同盟、古くはサンデーカーリズム、或る時はコミニズム、今日はまたフリンジズム等の思想的激流に襲はれたる日本の労働運動を常に正しき道に導き來つた総同盟、此の輝しき日本労働総同盟も、長い間、全協、中間派、モグリ組合等と玉石混淆視されて來た。

然しながら、國亂れて忠臣出で、家貧にして孝子出ず。の諺の如く、滿洲問題勃發以來、無産階級運動が異常なる多難期に遭遇するや、實質なき組合は雲散霧消し、或は轉向する等の醜態を露呈してゐる中に獨り我が日本労働総同盟のみは愈々益々その光りを増しつゝあるのである。

総同盟ならでは、との聲は労働者階級は勿論、凡ゆる階層を通じて、その進歩分子の中から起つて居り且つこの聲は日一日と廣く深く浸透しつゝあるのである。

恰もよし、此の秋に於て我が大阪聯合會大會は開催されるのである。我等は総同盟の運動方針に一層の確信を深めると共に、これを實踐行動の上に如何に具體化するべきかを本大會に於て慎重審議しなければならぬ。

そして、今日の精神的信頼を、實力的信頼に應へ得るまでに組織を擴大強化する爲めの來るべき一年間の指針としなければならぬ。

金剛石も磨かずんば光無し。

西尾末廣